

## 120910 「ツリフネソウ」と「マルハナバチ」

今の時期、林道やトレールを通ると、その脇の溪流や湿った場所に鮮やかなピンク色の小さな花が群れ咲いています。

この花の名前は「ツリフネソウ」といいます。

命名の由来は、“花が帆掛け船をぶら下げたような形だから”という説と、“横から見た花の形を、吊して使う舟形の花器に見立てた”という説があるようです。

いずれにせよ、咲き誇るこの花を見ていると、“いよいよ秋が近づいているんだなぁ”と思わず感慨にひたってしまうのです...

そしてこの花、なんとと言ってもその奇抜な形状に圧倒されてしまいます。

まるで、フグが何かの魚が大きく口を開いて、こちらへ向かってくるかのような...

なんでこのような形になったのでしょうか...

花をよく観察してみますと、その形状は筒型で、一番奥のところクルクルと丸まっているのですが、この部分に「蜜」があるのです。

この「蜜」を得るためには、“筒状の中へ潜り込み、かつ長い舌を有する”か、或いはオオスカシバのように“超長い口吻を有する”か、いずれかでないと困難であることは間違いありません。

この日はこの花の群落を何カ所かで見たのですが、その多くで、数頭の「トラマルハナバチ」(体長：2 cm弱)が吸蜜に訪れていました。

トラマルハナバチはこの花の蜜をこよなく愛するのでしょうか...、と言うよりも、ツリフネソウ自体がこのマルハナバチのために花の形とサイズを長い時間をかけて変えていった、という方が正しいのかも知れません。

花の奥にある蜜を求めてマルハナバチが潜り込んでいくと、花の内部の天井部分にある雄しべに、毛だらけの背中がこすれて大量の花粉が付着するのです。

花の方は、このような仕掛けを用意することで、自分と同じ種類の花に確実に花粉を運んでもらえるのですね...

何とも巧妙な仕組みに仕上がったものです... 《共進化》

写真 : 「ツリフネソウ」の花

写真 : この花を好んで訪問する「トラマルハナバチ」

写真 : 1匹の「トラマルハナバチ」が、花の入口にやってきました

写真 ~ : 花の中に潜り込む「トラマルハナバチ」

写真 : 吸蜜を終えて鼻から出てきた「トラマルハナバチ」  
よく見ると、背中や羽に白い花粉が付着しているようです。





















